

平成20年度教育活動重点目標：年度末自己評価

①教務係

今年度の重点目標

①生徒の学力向上を目指す

③生徒の出席状況の把握と選考指導

②校務が円滑に行えるように計画・立案する。

④生徒の豊かな人格形成を助ける。

※評価【達成度】A:十分 B:おおむねよい C:不十分】

目標	評価項目	評価の観点	中間評価	成果と年度末に向けての課題	年度末評価	成果と来年度に向けての課題
①	授業アンケートを実施し、その結果を利用した授業改善への反映	授業評価を実施し、授業改善に努めたか	B	生徒に配慮し無記名のアンケートを実施した。	B	無記名によるアンケートを実施し、より正確な情報を得ることができた。来年度はアンケート項目の検討を行う時期に来ている。
①②	教科シラバスによる計画的授業と定期考査の工夫	計画的な授業が展開でき、学習内容の定着が確認できたか	B	定期テストの結果などをもとにさらに学習内容定着への工夫を進めたい。さらに実態をふまえてシラバスの検討も並行して進める。	B	見直しを行った。さらに使いやすさの面での改良を考えていく必要がある。
①	年3回(3年は2回)の実力テストの結果を利用した学習活動への反映	結果を基に生徒に適切な指導できたか。適切な準備後処理が出来たか	B	概ね問題なく実施できている。	A	準備事後処理は、昨年度よりさらに効率良く実施できた。来年度は結果を反映した進路指導をさらに充実させる。
①②	授業時数の確保	時間割変更が的確で授業時間が確保できたか	A	年度当初の計画を柱に微調整で推移している。	A	ほぼ年度当初の計画通り進んだ。単位による偏りを最小限に実時間を見ていく必要がある。
①②	試験時間割・監督の日程	計画的な試験対策勉強が出来る環境を作れたか	B	監督等調整に手間取ることが多く、さらに早めの準備を進めたい。	B	監督の変更については先生方のご協力で対応していただいた。予備教室受験のあり方を検討していく必要がある。
①②	年間計画を適切に作成できたか	年間の様々な行事を適切に配置し、生徒の豊かな人格形成の手助けとなったか	B	授業時間の確保と効果的な行事の配置や内容の追求については年々難しくなっている。次年度に向けての検討に取りかかっている。	A	昨年同様時間確保は困難を極めている。次年度計画は4月当初の検診等を集中させ実時間確保に努力した。
	学校自己評価の充実	学校自己評価をとりまとめ、外部に公表できたか	B	中間評価項目を見直し、内容の充実を図った	B	概ね問題なく実施できた。HPへの掲載の準備も進んでいる。来年度は外部への公表手段を検討していきたい。
②④	LHRの計画・設定	学年・クラス運営に効果的な計画・内容であったか	B	必然的に各学年とも学期は文化祭の内容に終始してしまう。具体的にはクラス運営、人権、人間形成、進路など多岐要素が考えられる。さらにバランスを考えながら進めたい。	A	計画通りに実行することができた。
②	校内教研・テーマ学習会の立案・実施	研修結果が生徒指導に反映できるよう研修内容・講師選定・時間確保が出来たか	A	12月に計画されている校内教研に向けて講師との交渉中。テーマ学習会も積極的にしていきたい。	B	今年度は日程の関係で実施回数が少なくなってしまったが、突り多い研修会とすることができた。今年度取り扱えなかったテーマを来年度に引き継いでいきたい。
③④	生徒の出席状況の把握と先行指導が出来たか	毎日の出席状況や1/6、1/5オーバーした生徒を把握し、出席の改善が出来たか	B	状況連絡、把握は出来ているが、全体のものとして方向づけをさらに進めたい。	B	オーバー者への担任、学年の指導が定着し、効果も上げている。カルテの提出については工夫が必要か？
②	各種奨学金を生徒に紹介し、奨学金の受給を広げる	一覧表の配布や説明会を実施し、奨学金を生徒に紹介できたか	A	多くの希望者が出願することができた。引き続き希望者がいれば手続きを行う。	B	奨学金について締切後の問い合わせが何件もあり、周知も何回かにわけて徹底できるようにしたい。
②	奨学金主催団体への事務手続きを円滑に行う	奨学金名簿を製し、必要書類を適正に提出出来たか	A	引き続き書類の作成を適切に行う。	A	各種奨学金の手続きについて滞りなく行うことが出来た。

②進路指導係																
今年度の重点目標																
① 1学年(自己理解と職業観・勤労観の育成) 自己を理解し、社会への関心を深め、あらゆる職業・学問分野について知り、進路実現への設計図を描かせる。	③ 3学年(自立した人格の完成と進路決定) 社会人として必要な社会的・倫理的人格を完成させるとともに、個別の進路先についての理解を深め、進路の決定を行わせる。															
② 2学年(進路実現に向けた準備) 現実的な進路選択に向けて、各々の生徒に対応した指導を行う。また、具体的な進路方法を把握させ、その準備を進めさせる。																
※評価【達成度】A:十分 B:おおむねよい C:不十分】																
目標	評価項目	評価の観点	中間評価	成果と年度末に向けての課題	年度末評価	成果と来年度に向けての課題										
①②③	進路希望調査や進路ガイダンスを実施し、その結果を踏まえ進路指導を行う。	進路希望調査や進路ガイダンスを実施し、その結果を反映した指導を行えたか。	B	3学年の進路決定に際し、ガイダンス・保護者面談を実施。 1,2学年の進路ガイダンスは10月、11月に実施。	A	1月、1学年において、キャリア指導をLHRで実施。また、キャリア講演会(家庭内キャリア教育をテーマ)を実施。										
①②③	年間計画を適切に作成、実施できたか。	適切な時期に、進路選択に向けた生徒への指導が行えたか。	B	進路実現に向けて、指導中。	B	各学年、計画通りに実施した。模試の日程については検討が必要な日があった。										
①②③	進学補習を計画し、実施する。	進路実現のための実力をつけることができたか。	B	全学年夏期進学補習を実施。3学年は、センター試験演習を実施。 春期進学補習は来春実施。	A	3月中旬、春期進学補習を実施。 すべての補習、計画通り実施できた。										
①②③	土曜補習および進学合宿を計画し、実施する。	計画的に実施し、学習習慣および基礎力の向上を促すことができたか。	B	夏期勉強合宿を志賀高原で実施。 土曜補習は現在実施中。	B	12月まで土曜補習を実施。 日程的に土曜日だけでは実施が難しい実態がある。										
①②③	模擬試験・実力試験の結果を進路選択へ反映させる。	進路選択の観点から適切な指導・アドバイスができたか。	B	模擬試験の結果をもとに、指導している。個別の面談も実施。	A	センターリサーチ等を利用し、一般入試の指導を行った。										
③	入学試験・就職試験に対する指導を行う。	適切な指導・アドバイスができたか。	B	7月末に推薦入試面接指導会を実施。 10月には直前面接指導会を実施予定。 (就職指導を含む) 現在、個別の面接指導、小論文指導を実施中。	A	10月以降も、推薦および一般入試に対する指導を継続。 個別の面接、小論文指導を行った。										
③	進路決定に関して適切な指導を行う。	進路決定に向けて、適切な指導・アドバイスができたか。	B	随時、進路に関する相談をうけ、アドバイスしている。 今後、未決定者に指導を継続。	B	3月まで、進路未決定者に対して指導を継続。就職は、社会状況を反映し厳しい状況であった。										

③生徒指導係										
今年度の重点目標										
①規律ある学校生活を送らせる。	③ 保護者との連絡を密にした指導。									
②足並みをそろえた生徒指導	④ 不登校生への援助と心のケア									
※評価【 達成度】A:十分 B:おおむねよい C:不十分】										
目標	評価項目	評価の観点	中間評価	成果と年度末に向けての課題	年度末評価	成果と来年度に向けての課題				
①	服装頭髪等の指導を徹底する。	校門、ホームルーム、集会等できちんとした身なりをしているか。	B	学期の節目、連休明け等に随時、服装、頭髪指導を行うことで成果は見られる。状況に応じて指導の継続をしたい。	B	依然として違反者が多いので、さらに違反者を減少させる試みを考える必要がある。				
②	生徒指導関係の決定事項を全職員徹底する。	生徒、保護者から足並みのそろわないことを指摘されたか。	B	現時点では概ね良好である。	B	年間を通して概ね良好であった。				
③	問題行動等を該当の保護者に迅速に正確に知らせて適切な指導を行う。	保護者から、指導についての教師側の不備を指摘されたか。	B	数件の反省指導者が出ているが保護者も指導に理解を示し協力的である。	B	保護者が生徒の指導に理解を示さないケースがあった。				
④	相談室と連絡を取りながら適切な指導をサポートする。	相談室と連絡を取りながら適切な指導をサポートする。	B	1年生女子3名が相談室登校。1名については回復の兆しが見られる。他2名についても母集団復帰を相談室係と協力して行いたい。	B	教室に入れない生徒が今後も増加の傾向にあるのでその対策を考える必要がある。				

⑤生徒会係						
今年度の重点目標						
①生徒会本部役員のリダーシップのもと全校が一丸となった学校づくりをすすめる		③地域・保護者に関けた活動を生み出し、広く社会性を身につけさせる				
②クラス・クラブ・委員会など様々な生徒集団の中で自立と自治の力をつけさせ、民主的な人格形成を目指す						
※評価【達成度】A:十分 B:おおむねよい C:不十分						
目標	評価項目	評価の観点	中間評価	成果と年度末に向けての課題	年度末評価	成果と来年度に向けての課題
①	本部役員企画力・行動力を育みリーダー集団として成長させる	予餞会・西高祭など各種イベントを主催運営することにより、自らの組織力や行動する力を高める	A	西高祭では全校生徒が主体的に各企画の準備、運営にあたり、成功させることができた。	B	西高祭等の行事は意欲的に取り組み、成功させることができたが、それを全校集団の質的な発展にどうつなげるかが、課題である。
①	太鼓の伝統を引き継ぐ	太鼓の伝統的な指導を受け継ぎ、生徒会全体あるいは個人の精神的よりどころとする	A	本年度も青木義民太鼓の方々の協力を得て、立派な太鼓演奏を習得し、西高祭等で披露することができた。	A	本年度も青木義民太鼓の方々の協力を得て、立派な太鼓演奏を習得し、西高祭等で披露することができた。また、新役員も意欲的に取り組むことができた。
②	委員会活動を活性化させる	各委員会はそれぞれ活発に企画運営し生徒会の活性化を推進する	B	各委員会ではそれぞれ精力的に活動をこなすことができたが、一部の委員会ではやや一般の委員の主体的な取り組みが弱い面もあった。	B	各委員会ではそれぞれ精力的に活動をこなすことができたが、一部の委員会ではやや一般の委員の主体的な取り組みが弱い面もあった。すべての委員が主体的に関われる活動を工夫していきたい。
②	話し合いにより一致点を見つけ協力体制をつくる力を身につけさせる	生徒総会における方針や各イベントの企画の立案を通して討議・決定・実践・総括のプロセスを身につける	B	生徒総会では意見や質問が活発に出され活気ある総会となったが、方針の立案をもう少し綿密に考えさせる必要があった。	B	生徒総会では意見や質問が活発に出され活気ある総会となったが、方針の立案をもう少し綿密に考えさせる必要があった。
②	集団指導体制を通して豊かな資質を育む	イベントなどを通して色々な学年・クラスを超えた生徒、先生の交流をはかり豊かな人間性を身につける	A	文化祭をはじめ、強歩大会、リーダー研修会、クラスマッチなどで多に交流を深めることができた。	A	文化祭をはじめ、強歩大会、リーダー研修会、クラスマッチなどで多に交流を深めることができた。
③	他校や地域との交流をすすめる	他校との交流あるいは地域的な活動を通して他から学ぶ力や社会性を豊かにする	A	継続的に地域との交流を続けているD-プロの活動に加え、本年度は本部役員も西高祭での地域企画や諏訪二葉高校への研修など、積極的に交流活動をすすめている。	A	継続的に地域との交流を続けているD-プロの活動に加え、本年度は本部役員も西高祭での地域企画や諏訪二葉高校への研修など、積極的に交流活動をすすめて学習することができた。校外に目を向けた活動が校内を活性化させるために大いに有効である。
⑤広報係						
今年度の重点目標						
①HP発行物の充実化						
※評価【達成度】A:十分 B:おおむねよい C:不十分						
目標	評価項目	評価の観点	中間評価	成果と年度末に向けての課題	年度末評価	成果と来年度に向けての課題
	学校案内の作製発行	製作過程の取り組みの状況、内容に関するアンケート	A	好評だった。さらに充実したものにする。	A	ほぼ納期予定通り発行ができた。中学の先生の評判も良かった。
	学校案内ダイジェスト版の作製発行	製作過程の取り組みの状況、内容に関するアンケート	A	好評だった。さらに充実したものにする。	A	ほぼ予定通り発行できた。中学の先生及び生徒の評判も良かった。
	西高ニュースの作製発行	製作過程の取り組みの状況、内容に関するアンケート	B	取り掛かりが遅れた。計画的に進める。	A	例年どおり2号発行。西高生のか活躍を中心に最新の話題が提供できた。
	HPの作製運営	製作過程の取り組みの状況、定期的な運営管理	A	好評だった。さらに充実したものにする。	A	新着情報の適宜更新を行うことができた。今後も状況を見ながら更に改良をしていきたい。
	西高の教育の作製発行	製作過程の取り組みの状況、保護者からの反応		未発行	A	2ページ500部増で創立49年記念特集号として発行できた。
⑥防災整備係						
今年度の重点目標						
①管理箇所の点検や防災の推進を図る。		③全校生徒、職員での清掃活動を徹底する。				

	②年間を通して校舎内外の整備と美化に努める。	④学習環境や地球環境の保護意識を高める。								
	※評価【達成度】A:十分 B:おおむねよい C:不十分】									
目標	評価項目	評価の観点	中間評価	成果と年度末に向けての課題	年度末評価	成果と来年度に向けての課題				
①	各分担箇所の管理と防災意識の啓発	破損箇所の発見や修理が的確に行われていたか。管理箇所の安全が保たれていたか。	B	学校見学会や部活見学会等を通じ、概ね良好に実施できている。	B	更に細部にわたる指導が必要である。				
①	ストーブの安全使用。	事故無く安全に使用できたか。		エアコン設置により安全性が高まった。今後は、環境や経費を配慮した指導を徹底していきたい。	A	エアコン設置により、火気管理上の安全性が高まった事は大きな前進である。				
①	防災訓練の成功。	迅速に訓練ができたか。	A	火災非難訓練はとても迅速にでき、またその他の災害に対する意識づけもできた。	A	年々向上しているので、更に充実させたい。				
②③	清掃の徹底。	清掃箇所が常に清潔に保たれていたか。	B	クラスや場所によってムラがある為、更に指導徹底をうながしたい。	B	積極的に先行する指導が不足したので改善したい。				
②③	通学路清掃の推進。	各クラスで積極的かつ活発に清掃活動が行われていたか。	A	毎週きちんと実施されており、今後も現状を継続したい。	A	良い形で定着してきたので、継続をはかりたい。				
②③	通学路清掃の推進。	整美、校風委員会の連携の取れた活動はできたか	B	委員会活動としての推進はまだ充実の余地がある。今後はさらに力を入れていきたい。	A	概ね良好であった。				
③④	分別ゴミの徹底。	ゴミの分別をきちんとし、学習環境や地球環境保護意識を高められたか	A	業者による説明会を開催したり、連日の集積所指導などを通じ意識を高めてきた。今後も更に充実させていきたい。	A	ほぼ目標は達成できた。今後も更に指導を徹底したい。				